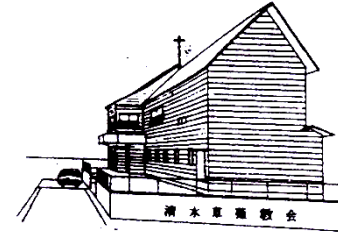


週報

2008年 1月 6日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。

使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸

《今朝の聖書から》その翌日、ヨハネはイエス様の方を、個人的に指差し“見よ、世の罪を取り除く神の子羊(1:29)”と言っています。バプテスマのヨハネがイエス様を特定して、指し示した最初になります。“指し示す”ということ、私たちはいろいろと、指し示してはいるのですが、もう一度、何を指し示しているか考えてみたいものです。ひょっとしたら、“神の子羊”その方を指し示しているのに、気付かないこともあるのではないのでしょうか。更の、このヨハネの行為は大勢の人々の前でなされました。“あかし”なのです。聖書を読み進めましょう。ヨハネの言葉を聞いていた人々には、過ぎ越しの祭り、エルサレム神殿で犠牲のために捧げられる羊のことがすぐに思い浮かんだに違いありません。これが第一のイメージです。第二のイメージは、“イザヤ書”53書に出てくるみ言葉だったでしょう。“多くの人の罪を負い”、“神に打たれ、苦しめられる”とあります。ここでヨハネはメシアについて証をしています。メシア(キリスト)はどんな方でしょうか。贖い(あがない)の働きに関係づけて、彼は証をしているのです。決してキリストという、大いなる政治勢力ではないと、言っているのです。聖書のみ言葉は実にこの証からなっています。“マタイ11:2~3”には“獄中からヨハネは、弟子を遣わして「あなたはキリストか」と問わせている記録があります。しかしヨハネの証は彼の言葉であり、言い伝えや記録ではなく、“世の罪を取り除く、神の子羊”と証をしているのです。33節を見ましょう。ヨハネの授けていた、水のバプテスマは、人々を清めることはしましたが、“罪を取り除く”ことはできませんでした。それができるのは、聖霊によってバプテスマを授ける方のみ、十字架に直面した神の独り子だけだったというわけです。ヨハネは大きく二つのことを、ここで証ししています。ひとつは、メシア(キリスト)は、贖い主であるということ、もう一つは、このクリスマスに取り上げた内容の繰り返しになりますが、“私は判った”ということです。“判った”ということですが、“この方の上に聖霊が鳩のように降った”ことによって彼は知りました。33節を見ましょう。“わたしをおつかわしになったそのかた”とありますが、この方はどなたなのでしょう。“聖霊なる方”なのでしょう。そして、神様について証しをするために遣わされているのです。すべてのクリチャンは、神様について指し示し、証しをするために、月曜から土曜日まで遣わされ、派遣されているのでしょうか。